

図書館システム機能要求書

NO	処理機能	項目	要求機能
1 図書館システム全般			
	画面	1	画面のサイズは任意に変更できること。
	入力	2	処理選択・コード値選択がマウス及びファンクションキーで操作できること。
		3	貸出画面や返却画面の資料明細で、マウスの右クリックによりローカル情報、タイトル情報の修正ができること。
	画面展開	4	貸出・返却等、各関連業務内の処理画面の個々の展開は、メニュー画面に戻らずに効率的に運用できること。
	業務メニュー	5	業務メニューの構成は、端末ごとに変更できること。
	統計処理	6	集計結果を画面で確認でき、必要に応じて印刷できること。また、必要な統計はグラフ表示ができること。
	レシート印刷	7	貸出期限票等のレシートを任意の専用プリンタにより出力できること。
	帳票	8	必要な帳票内容は、CSV出力に対応すること。
	資料バーコード	9	資料と紐づいたバーコードが利用できること。また、バーコードは別のシステムから出力した任意のバーコード値が設定できること。資料登録後のバーコード発行及び資料登録前の任意のバーコードが発行できること。バーコードラベル用紙は市販されている任意の用紙が使用できること。
	利用者カード	10	バーコードを印刷した利用者カードが利用可能なこと。また、バーコードは別のシステムから出力した任意のバーコード値が設定できること。利用者登録後のバーコード発行及び利用者登録前の任意のバーコードが発行できること。バーコードラベル用紙は市販されている任意の用紙が使用できること。
	最大データ量	11	推定蔵書数20万冊の管理
		12	登録利用者数3万人
	セキュリティ	13	業務端末から図書館システムを利用するには、OSレベル(業務端末ログイン時)とシステムレベル(新システム起動時)の二重のパスワード認証を必要とすること。
2 運用			
	マニュアル	1	全機能を解説した電子マニュアルを表示できること。
3 貸出業務			
	貸出手順	1	利用者番号と資料番号のバーコード読み込み登録操作にて完了すること。
	貸出処理	2	個人・団体・相互等、いずれの貸出処理も同一画面で行えること。
		3	当日中に貸出処理をした資料の貸出取消が統計に反映することなく行えること。
		4	資料種別(図書・雑誌・AV資料等)毎の貸出日数の設定、利用者毎の貸出日数、予約有効日数、種別毎の貸出点数、合計貸出点数が設定できること。
		5	予約していた資料を貸し出すと、予約データが消去されること。
	図書館カレンダー	6	図書館カレンダーの休館日を設定することで返却予定日を管理し、また貸出画面での随時変更も可能なこと。
	貸出期間設定	7	貸出画面から貸出期限票の印刷を行えること。
	紛失登録管理	8	紛失登録時から、紛失日、メモを管理し、紛失資料の管理を行うことができること。
	プライバシー保護	9	画面上に「表示クリア」ボタンを配置し、随時押すことにより表示情報クリアができること。
	レシート印刷	10	貸出処理後、利用者氏名・連絡先・貸出資料・返却予定日・予約待人数・自由文等(端末毎に任意に設定可能)をレシートプリンタにより印刷できること。
	操作員通知	11	貸出画面では、各種確認については確認する業務の性質上、サブウィンドウで表示し、確認漏れのないようにすること。
	利用者への周知もしくはスタッフ周知	12	利用者を確定した時点で、その利用者への連絡事項もしくは図書館スタッフ間での周知事項等が表示できること。
	貸出日の変更	13	貸出画面上で貸出日の変更ができること。
	新規貸出のキャンセル	14	新規貸出の場合、資料バーコードを2度読みすることでキャンセルすることができること。
	利用者単位の返却操作	15	利用者を特定することで、貸出中明細の右クリックで全ての返却ができること。また、個別の返却もできること。
	貸出明細上での予約の確認	16	貸出明細の右クリックで予約状況の確認ができること。

4 返却業務		
返却手順	1	返却する資料の資料番号を読み込むだけで返却が確定すること。
返却処理	2	資料番号を読み込んだ時点でデータベースを更新し、完了処理等は不要なこと。また、システム設定により切り替えることができること。
	3	ブックポスト等の多量の返却本を連続で返却する機能があること。
その他	4	利用者を特定することにより、当日の返却済み資料を確認できること。
レシート印刷	5	予約されていた資料の返却時に、メッセージが表示できること。
5 資料検索業務		
検索方法	1	資料名・著者名・件名・出版者・一般注記・内容・ISBN・分類、タイトルコード及び請求記号・資料番号を検索項目にできること。
	2	論理演算子(AND)を使用し、複数項目間の複合検索が行えること(5項目以上の複合検索に対応していること)。
	3	各種検索キーをひらがな・漢字・アルファベットの全半角・大文字小文字両方で同じ検索が行えること。
絞込条件	4	ローカル項目(資料種別、所蔵館、保管場所、状態区分等)の組み合わせを絞り込み条件として選択可能であること。
6 利用者登録業務		
住所入力	1	住所ファイルを有し、住所コードにより住所登録できること(住所コードの入力又は選択により、住所・郵便番号が自動的に入力されること)。また、郵便番号入力確定時、住所ファイルから該当する住所コードを参照し、自動表示できること。
電話番号	2	複数の電話番号及び連絡先を登録できること(この時、「保護者」「通勤先」などと別枠で入力でき、表示されること)。
登録処理	3	利用者の登録、既存利用者の登録情報の修正、登録利用者の除籍、利用者カード紛失時等の再発行処理を行えること。
再発行	4	図書館利用データ(貸出状況等)を引き継いでの利用者カードの再発行・番号置換ができること。
二重登録チェック	5	二重登録利用者のチェックを自動的に行えること。
メールアドレス登録	6	利用者のメールアドレスを登録できること。
コメント管理	7	利用者のチェック機能としてフリーな文字を入力できること。
管理情報	8	利用者毎の過去5年以上の利用実績(貸出数、利用回数)を参照できること。
7 予約リクエスト業務		
予約処理	1	予約資料の現在の状態(利用可能、予約中等)の管理が行えること。
	2	利用者単位の予約上限数を設定し、新規予約登録時に上限追加する場合は確認画面を表示し、続行・中断が選択できること。
	3	利用者単位の予約上限数は、利用者グループ単位にできること。
	4	特定した予約(割当て済みを含む)を解除できること。
	5	予約の連絡について連絡済、未連絡を管理できること。
	6	複本がある場合、全ての複本に予約がかかり、どれか一冊が返却された時点で予約通知が行えること。
	7	相互貸借資料の予約にはチェック機能が働くこと。
予約管理情報	8	予約した際の予約日時を管理することができること。
予約制限	9	予約割当制限にて、特定資料に対して予約割当を不可とする設定が可能なこと。
	10	長期延滞資料のある利用者が予約しようとした場合、職員判断により予約を受けける設定にできること。
8 相互貸借業務		
受入処理	1	どこの館からどの資料を借りているか画面で表示できること(借受館へ返却済みか等の状態も表示できること)。
借受先への返却期限	2	借受資料単位の借受先への返却期限を管理できること

9 データ管理			
	利用者情報	1	利用者番号、利用者区分、利用者氏名、性別、電話番号等管理できること。
	書誌データ	2	タイトル、著者、出版者、出版年月、ISBN、NDC、本体価格等管理できること。
	所蔵データ	3	資料番号、資料種別、所蔵館、請求記号、保管場所、受入先、受入価格等管理できること。
	貸出データ	4	貸出資料番号、貸出日時、返却期限日等管理できること。
	予約データ	5	予約タイトル、予約受付日時等管理できること。
	統計データ	6	貸出数、利用人数、利用者数及び蔵書冊数 等管理できること。
10 書誌データ管理業務			
	書誌データ管理	1	国立国会図書館(NDLマーク)、図書館流通センター(TRCマーク)の両方が取り込めること
11 ローカルデータ管理業務			
	ローカルデータ管理	1	ローカル情報にコメントを入力することができること。
		2	複本のデータ管理が行えること。
	蔵書点検	3	蔵書点検の機能を有すること。
		4	保管場所が異なる場合や未返却が見つかった場合、音声にて知らせることができること。
		5	紛失資料が見つかった場合、配下済みに状態を変更できること。
12 雑誌管理業務			
	雑誌管理	1	雑誌を登録管理する機能を有すること。(一般的な資料として取り込めれば問題ない)
13 発注・受入管理業務			
	受入処理	1	受入処理が終了した資料については、受入図書リストに出力できること。
14 利用者管理業務			
	利用者検索	1	五十音図の最初の文字(「あ」「か」「さ」「た」「な」...)を特定することで該当する利用者の一覧が表示されること。
	利用者処理	2	利用者一覧画面から選択した利用者の再発行が可能なこと。
	無効処理	3	最終利用日から一定期間(任意に設定可)を過ぎた利用者を無効(除籍)にできること。
	督促処理	4	貸出期限・利用区分によって督促対象者の抽出・設定ができること。
		5	返却予定日の範囲指定、督促回数、借受け資料、貸出館により、督促リストの印刷ができること。
		6	紛失登録した資料を督促対象から除くことができること。
15 OPAC機能			
	全般	1	タッチパネルディスプレイを利用したシステムであること。
	検索	2	ひらがな、カタカナ、数字、特殊文字の文字入力が可能なこと。
		3	50音表記から検索キーの入力ができること。
	セキュリティ	4	一定時間経過後、もしくは任意の操作により検索情報がクリアできること
		5	別なアプリケーションを起動、OSの設定画面を起動、OSのシャットダウン、OPACのシャットダウン等ができないこと
16 帳票・統計			
	帳票全般	1	随時作成可能であること。
		2	A4サイズで統一されていること。
		3	抽出条件、打ち出し順の選択の幅が広いこと。
		4	基本的に罫線付きであること。
		5	プレビュー機能で画面を確認できること。また、マウスクリックにて拡大縮小ができること。